

## シラバス

授業内容	対面授業 および通 信学習	目的・学習内容	教科書 の範囲
職務の理 解	対面授業 6時間	<p><b>【目的】</b> これからの介護が目指すべきその人の生活を支えるケアの実践について具体的なイメージで実感できる。 介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのかという事が理解できる。</p> <p><b>【学習内容】</b> ★多様なサービスの理解 介護保険サービス（居宅・施設） ★介護職の仕事内容や働く現場の理解 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 チームアプローチ、他職種連携</p>	1-2～39
介護にお ける尊厳 の保持・ 自立支援	対面授業 1.5時間 通信学習 7.5時間	<p><b>【目的】</b> 介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚する。 自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、およびやってはいけない行動などを理解する。</p> <p><b>【学習内容】</b> ★個人としての尊厳 権利擁護 個人の尊厳と価値 社会的役割の実感 ★ICF 介護分野における ICF ★QOL</p>	1巻P42 ～77

		<p>生活の質の捉え方、 生活の質と人間の尊厳 ノーマライゼーションの理念と実際、歴史</p> <p>★高齢者虐待防止、身体拘束禁止 高齢者虐待防止法、 身体拘束禁止 個人情報保護法</p> <p>★自立に向けた介護 専門職として求められる『自立』と『自律』 自立支援のための介護方法</p>	
介護の基本	<p>対面授業 3時間 通信学習 3時間</p>	<p><b>【目的】</b> 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付く 職務におけるリスクとその対応策の内重要なものを理解 する。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生 活を支えるという視点から支援を捉える。</p> <p><b>【学習内容】</b> 1、介護職の役割、専門性と他職種との連携</p> <p>★介護環境の特徴 訪問介護サービス 施設介護サービス 地域包括ケア</p> <p>★介護の専門性 重度化防止、遅延化の視点 利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支援するた めの援助 根拠のある介護 事業所内のチーム、他職種から成るチーム 医行為と医療的ケア</p> <p>★介護にかかわる職種 チームにおける役割分担 介護にかかわる職種の機能と役割</p> <p>2、介護職の職業倫理</p> <p>★介護職の職業倫理 法令順守</p>	1巻P80 ～123

		<p>利用者の個人の尊厳と介入 日本介護福祉士会の倫理綱領</p> <p>3、介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>★介護における安全確保</p> <p>重要性 リスクマネジメント リスクマネジメントにおける重要な要素</p> <p>★事故予防、安全対策</p> <p>危険予知と事故予防 事故発生時の対応 具体的事例</p> <p>★緊急時に必要な知識と対応方法</p> <p>想定される事故 応急手当 一時救命処置の実際</p> <p>★感染症の理解</p> <p>注意すべき感染症とその対応 感染症の予防と対策</p> <p>★介護職の健康管理</p> <p>介護職に起こりやすい健康障害 腰痛予防 感染症の予防 ストレスマネジメント</p> <p>【演習】 ガウンテクニック、手洗い</p>	
介護・福祉サービスの理解と医療との連携	<p>対面授業 1.5 時間</p> <p>通信学習 7.5 時間</p>	<p>【目的】 介護保険制度や、障害者総合支援制度を担う一員として最低知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。</p> <p>【学習内容】 1、介護保険制度</p> <p>★介護保険制度創設の背景と目的・動向</p> <p>社会的背景 介護保険法の成立 介護保険制度の導入後の動向</p>	1 巻 126 ～197

	<p>★介護保険制度の仕組みと基礎的理解      保険制度としての基本的仕組み      サービス利用の流れ      介護保険サービス（介護給付・予防給付）      地域支援事業・市町村特別給付・地域包括支援センター</p> <p>★介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割      制度運営の役割分担      介護保険事業計画      介護サービス事業者の質の確保      苦情への対応      情報公表・第三者評価</p> <p>★医療保険制度の概要      医療保険の種類、      医療給付の内容</p> <p>★年金保険制度の概要      年金保険の種類      年金の給付の内容</p> <p>2、医療との連携とリハビリテーション</p> <p>★高齢者の服薬と留意点      薬剤の服用とその観察      薬剤の副作用      薬の種類に合わせた与薬の方法      医師や薬剤師との連携についての知識、管理</p> <p>★経管栄養、吸引、吸入、浣腸など      医療処置の目的と方法      医療処置を行っている人の介護</p> <p>★健康チェック      健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術      全身観察      体温・脈拍・血圧・呼吸の測定による観察の方法      他職種との連携のための観察やケアから得た情報の提供</p> <p>★訪問看護      訪問看護事業所      訪問看護と訪問介護の連携</p>	
--	---	--

		<p>★リハビリテーション医療の意義と役割 リハビリテーション リハビリテーション医療の流れ リハビリテーション医療と介護の連携</p> <p>★リハビリテーション医療の過程 急性期リハ、回復期リハ、維持期リハ</p> <p>★訪問、通所、地域リハビリテーション 訪問リハ、通所リハ、地域リハ</p> <p>3、障害者自立支援制度およびその他の制度</p> <p>★制度創設の理念・背景と目的 我が国の法律で定める障害の捉え方 障害者（児）福祉の背景と動向 障害者雇用と就労状況</p> <p>★制度の仕組みと基礎的理解 障害者福祉サービスのしくみ 所得の保障 個人の権利を守る制度の概要と基本理念</p>	
介護におけるコミュニケーション技術	<p>対面授業 3時間 通信学習 3時間</p>	<p><b>【目的】</b> 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人一人異なることを理解する。 上記の違いを意識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識する。 初任者として最低限の取るべき行動例を理解する。</p> <p><b>【学習内容】</b> 1、介護におけるコミュニケーション</p> <p>★コミュニケーションの意義と目的、役割 コミュニケーションの基本要素、目的と方法、相手のコミュニケーション能力への理解と配慮</p> <p>★コミュニケーションの手段と技法 言語的・非言語的コミュニケーション</p> <p>★利用者・家族への対応の基礎知識 カウンセリングマインド、良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション</p> <p>★利用者・家族への対応の実際 利用者、家族の想いを把握する、利用者との信頼関係を結ぶ、家族へのいたわりと励ましを行うコミュニケーション</p>	1 巻 P200 ～245

		<p>ション</p> <p>★利用者の状況・状態に応じた対応（聴覚障害者、視覚障害者、もう聾者など）</p> <p>2、介護におけるチームのコミュニケーション</p> <p>★記録による情報の共有化</p> <p>記録の意義・目的</p> <p>記録の種類</p> <p>記録の書き方</p> <p>記録にかかわる法令</p> <p>★報告・連絡・相談</p> <p>報告・連絡・相談の意義・目的・方法</p> <p>★コミュニケーションを促す環境</p> <p>会議の種類と会議に臨む姿勢</p> <p>ケアカンファレンス</p> <p>サービス担当者会議</p> <p>事例研究・事例報告について</p>	
<p>老化の理解</p>	<p>対面授業 3時間</p> <p>通信学習 3時間</p>	<p>【目的】</p> <p>加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面、心理的な側面を理解する。</p> <p>1、老化に伴うところとからだの変化と日常</p> <p>★老年期の発達と心身の変化の特徴</p> <p>加齢と老化の概念</p> <p>人格と尊厳 老いの価値</p> <p>性役割と老年期の性</p> <p>★心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>老化に伴う身体的心理的機能の変化、</p> <p>老年症候群と生活上の留意点</p> <p>高齢者に多い生活上の留意点</p> <p>2、高齢者と健康</p> <p>★高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>老年症候群とは 早期発見、</p> <p>運動器の機能向上、</p> <p>口腔機能の改善</p> <p>低栄養の改善</p> <p>認知機能の向上</p> <p>尿失禁の改善</p>	<p>1巻 248 ～305</p>

		★高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）	
認知症の理解	対面授業 3時間 通信学習 3時間	<p><b>【目的】</b> 認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を理解する。</p> <p><b>【学習内容】</b> 1、認知症を取り巻く状況</p> <p>★認知症ケアの理念     パーソンセンタードケア     認知症ケアの視点</p> <p>2、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <p>★認知症の概念と原因疾患・病態     認知症の概念     認知症の中核症状     認知症の原因疾患の診断     認知症の治療     認知症と間違われやすい病気     認知症についての最近の話題</p> <p>★原因疾患別ケアのポイントと健康管理     食生活の偏り、脱水、便秘、低栄養、運動量の低下、廃用症候群、口腔ケア</p> <p>3、認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活</p> <p>★生活障害、心理・行動の特徴     認知症の人の心理、BPSD、原意疾患による認知症症状の違い</p> <p>★利用者のへの対応     ケアの在り方と周辺症状、認知症症状の背景を読み解く、非薬物療法</p> <p>4、家族への支援</p> <p>★家族とのかかわり方     認知症受容課程での援助     介護負担の軽減</p> <p><b>【演習】</b> グループワークなど</p>	1 巻 P308 ～357
障害の理解	対面授業 1.5時間 自宅学習	<p><b>【目的】</b> 障害の概念と ICF,障害者福祉の基本的な考えから、介護の行ける基本的な考え方について理解する。</p>	1 巻 P360 ～415

	1.5 時間	<p>1、障害の基礎的理解</p> <p>★障害の概念と ICF 障害者福祉の基本理念と ICF</p> <p>2、障害の医学的側面の基礎的知識</p> <p>★肢体不自由者、内部障害、視覚障害、聴覚障害、精神障害統合失調症、躁鬱病、神経性障害、アルコール依存症、知的障害、発達障害、ダウン症、高次脳機能障害の原因、生活援助のポイントなど</p> <p>3、家族の心理の理解、かかわり支援の理解</p> <p>★家族の心理・かかわり支援 介護する家族の遭遇するストレス 障害の理解と受容支援 介護負担の軽減</p> <p>【演習】 グループワークなど</p>	
介護の基本的な考え方	対面授業 1 時間	<p>【目的】 利用者の状態、状況を把握しながら介護を提供する事、理論に基づいた介護とは何か、他職種との連携、その法的根拠などについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 理論に基づいた介護 法的根拠に基づく介護、自立支援、介護予防</p>	2 巻 P2 ～9
介護に関するところのしくみの基礎理解	対面授業 1 時間	<p>【目的】 介護技術の根拠となる人の心の状況を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学習と記憶、感情と意欲、に関する基礎知識 基本的欲求と自己有用感 障害を持った人が今出来ていることを認める 生きがいと意欲 適応行動と阻害要因</p>	2 巻 P10 ～21
介護に関するからだのしくみの基礎理解	対面授業 7 時間	<p>【目的】 介護技術の根拠となる人体の構造に関する知識を習得する。</p> <p>健康チェックとバイタルサイン 骨・関節・筋肉・中枢神経と体性神経・自律神経と内部臓器に関する基礎知識</p>	2 巻 P22 ～53



<p>生活支援 技術の講 義・演習 (生活と 家事) (整容) (移動) (食事) (入浴・ 清潔) (排泄) (睡眠) (ターミ ナルケア ) (快適な 住環境)</p>	<p>対面授業 45 時間 自宅学習 10 時間</p>	<p><b>【目的】</b> 安全な介護サービスの提供法などを理解し、介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持っている力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域などでの生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <p><b>【学習内容】</b></p> <p>1、家事援助の基礎知識と生活支援 個別性の孫著、個人の価値観、生活歴、信頼関係の形成、自立支援、調理、被服、掃除、買い物、裁縫、ベッドメイキング</p> <p>2、整容に関する基礎知識 具体的な整容行動</p> <p>3、移動・移乗介助に関する基礎知識 ★移動・移乗の意義・目的 残存能力の活用・自立支援 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の基礎であるボディーメカニクス ★移動、移乗に関する福祉用具の種類、各福祉用具の特徴、福祉用具の適切な活用方法 ★負担の少ない移動・移乗方法と支援方法 活動の低下が及ぼすところとからだへの影響 体位変換、移乗、歩行、車いすの具体的な移動方法 日常生活の活性化、外出の介護所、社会参加の意味</p> <p>4、食事に関する基礎知識 ★食事に関する基礎知識 食事の意味 食事摂取のしくみ 加齢や障害にともなうさまざまな症状 ★食事環境の整備と用具の活用方法 食事に関連した観察のポイント 適切な食事環境 ★楽しい食事を阻害する要因と支援方法 様々な状態に合わせた介護方法 誤嚥した場合の対応 食事介護における観察ポイントと記録</p>	<p>2 巻 P56 ~ P285</p>
--	--	---	-------------------------------

	<p>★食事と社会参加の留意点と支援 食事介護の社会的側面 口腔機能</p> <p>5、入浴と清潔保持に関する基礎知識</p> <p>★入浴の介助 清拭の介助</p> <p>★入浴と整容の用具の活用方法 シャワー浴、一般浴、片麻痺の介助 手浴、足浴の介助、洗髪、髭剃りの介助</p> <p>★楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 入浴に際したリスクと対応 認知症高齢者の入浴に際したリスクと対応</p> <p>6、排泄に関する基礎知識</p> <p>★排泄に関する基礎知識 排泄の意義・メカニズム・障害・失禁の種類</p> <p>★排泄しやすい環境整備 排泄用具の種類と特徴、おむつの弊害</p> <p>★爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 排泄障害が日常生活に及ぼす影響 排泄を支援する際の基本原則 排泄支援の実際</p> <p>7、睡眠に関する基礎知識</p> <p>★睡眠の基礎知識 睡眠の役割、障害の種類</p> <p>★睡眠環境と用具の活用方法 寝室の環境整備、寝具の種類と選び方、心地よく眠るための生活</p> <p>★快い睡眠を阻害する要因と支援方法 睡眠を阻害する要因、心身の苦痛の軽減、安楽な体位、褥瘡予防</p> <p>8、終末期に関する基礎知識</p> <p>★終末期に関する基礎知識 住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア</p> <p>★生から死への過程と心の理解 高齢者の死に至るパターンとケアの特徴 終末期の身体的状態と苦痛を和らげるケア</p>	
--	--	--

		<p>終末期の心理状態          苦痛の少ない死への支援と他職種との連携</p> <p>9、住宅改修サービスの基礎理解</p> <p>住宅改修サービスの          介護保険による住宅改修の概要          福祉用具の概念          代表的な福祉用具の理解          介護保険上の福祉用具貸与、購入費の支給</p> <p><b>【演習】</b>          各項目でそれぞれに実際に模擬演習を行う。</p>	
生活支援 技術演習	対面授業 10時間	<p><b>【目的】</b>          全ての基本知識を学習後、それをどのように展開できるかを考える事が出来る。</p> <p>★事例検討          科学的思考と介護過程          介護過程の展開に必要な構成要素</p> <p><b>【演習】</b>          グループワークなど</p>	2 巻 P288 ~ P321
振り返り	対面授業 4時間	<p><b>【目的】</b>          研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。          就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る</p> <p><b>【内容】</b>          ★振り返り          研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点          ★就業への備えと研修修了後における継続的な研修          継続的に学ぶべきこと、          研修修了後における継続的な研修について          キャリアアップに関する国の考え方</p>	2 巻 P322 ~ P325
修了試験	対面 1時間	介護職員初任者研修の研修についての理解を確認する。	